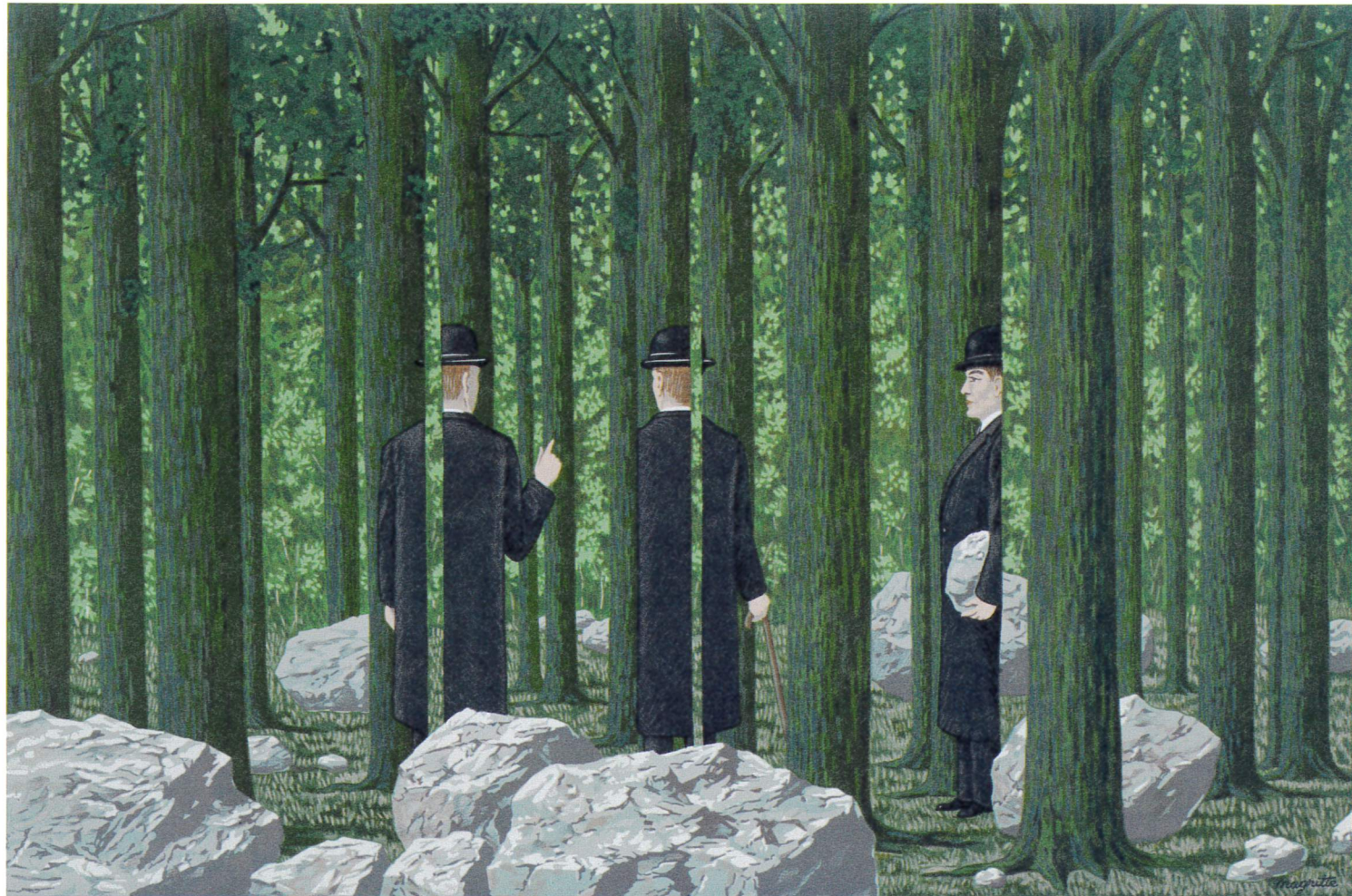




ルネ・マグリット 《マザー・グース》(「マグリットの落とし子たち」より) 1968年 姫路市立美術館

運命は輪廻でも生きものでもなく

巨大でも赤色でもない

運命にとって意味があるのは概念だけだ

あらゆる悲惨の果てで

悦びという語が失われた時に

(詩: ルイ・スキュトネル / 訳: 塚原史「マグリットの落とし子たち」より)

本歌取り式 名画選

——— 今、交差する 伝統・対話・創造

ALLUSIVE VARIATION: HONKADORI AND MUSEUM MASTERPIECES

2022年11月19日|土| - 2023年1月15日|日|

休館日: 月曜日(ただし1月9日は開館)、12月28日(水)から2023年1月3日(火)、1月10日(火)

開館時間: 10:00-17:00 (入場は16:30まで)

観覧料: 一般 700 (500) 円 大学・高校生 400 (200) 円 中学・小学生 200 (100) 円 ※ () 内は20人以上の団体料金

会場: 姫路市立美術館 企画展示室

主催: 姫路市立美術館

協力: 公益財団法人小田原文化財団、ギャラリー小柳、新素材研究所、杉本スタジオ、書寫山圓教寺、姫路市埋蔵文化財センター

後援: 朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、

姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西 ※50音順

姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art

オールひめじ・アーツ&ライフプロジェクト
All Himeji Arts & Life Project
令和4年度 文化庁 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

本展は、姫路市立美術館にて先に開催された「杉本博司 本歌取り——日本文化の伝承と飛翔」において現代美術作家・杉本博司が提示した「本歌取り」の概念へのひとつの応答として、当館自体が自館のコレクションを再検証する試みです。杉本は、和歌の作歌法「本歌取り」の手法を日本文化全般に通底する伝統的な美意識として捉え、また20世紀以降の美術に最も影響を与えた一人マルセル・デュシャンの「レディメイド」に独自の解釈を加え、洋の東西を超えて現代の世界を捉え直す壮大な思念の地平を展開しました。杉本によって拡張された「本歌取り」の概念を受け、本展では「本歌取り式 名画選」と銘打ち、コレクションの既存の解釈や価値の更新に挑みます。

京で起こった琳派の作品に私淑し、江戸琳派を開いた酒井抱一や、日本の伝統的な「やまと絵」様式の巻物を本歌とし、それを近代的な会場芸術に昇華させ新興大和絵を興した松岡映丘、アンリ・ルソーの名画を横尾ワールドに塗り替える横尾忠則、ルネ・マグリットの死後、彼の図像を本歌に作詩した詩人ルイ・スキュトネール、伝統的な概念「メメント・モリ(死を忘れることなかれ)」にテーマの源泉を遡ることが出来るジェームズ・アンソール、エドヴァルド・ムンクら西洋近代画家達。さらには、浮世絵の大首絵の影響を受けたとされるピカソ、ゴヤの版画に触発された浜田知明…。

時空を超えた影響関係を包含し、杉本の海景シリーズの代表作《日本海、隠岐》をはじめ《英仏海峡、エトルタ》、新作の《狩野永徳筆 安土城図屏風 想像屏風風姫路城図》と《性空上人像》の4点とともに、コレクション約90点を、本歌と本歌取りのダイナミックな地平に俯瞰します。

本歌取り式 名画選

——— 今、交差する 伝統・対話・創造

ALLUSIVE VARIATION: HONKADORI AND MUSEUM MASTERPIECES



杉本博司《狩野永徳筆 安土城図屏風 想像屏風風姫路城図》2022年 ©Hiroshi Sugimoto



上: 横尾忠則《アンリ・ルソー「眠れるジプシー」より》
1967年 姫路市立美術館 ©Tadanori Yokoo
下: 池田通都《華厳》1927年 姫路市立美術館



杉本博司《日本海、隠岐》1987年
©Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi
※本作品の展示は12月11日(日)までとなります。

会期中の催し | いずれも参加費は無料 ※但し「本歌取り式 名画選」の当日観覧券の提示が必要(半券可)。

1 講演: 本歌取りの精神を考える—メメント・モリをめぐる—

講師: 潮江宏三氏(美術史家)

日時: 11月23日(水・祝) 14:30-16:00(入場は14:00から)

場所: 姫路市立美術館 2階講堂

2 講演: 本歌取りの精神を考える—性空上人像を中心に—

講師: 奥健夫氏(文化庁文化財鑑査官)

日時: 11月26日(土) 14:00-15:30(入場は13:30から)

場所: 姫路市立美術館 2階講堂

3 展示解説会「今、交差する 伝統・対話・創造」

日時: 12月3日(土) 14:00-15:30

場所: 姫路市立美術館 2階講堂

4 講演: 本歌取りの精神を考える—デュシャン、マグリット、そして杉本博司

出演者: 塚原史氏(早稲田大学名誉教授)

日時: 12月10日(土) 14:00-15:30(入場は13:30から)

場所: 姫路市立美術館 2階講堂

5 子ども鑑賞会

内容: 小学生以下を対象とした当館学芸員によるギャラリートークと、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行います。

日時: 1月7日(土) 午前の部 11:00-11:40 午後の部 14:00-14:40

場所: 姫路市立美術館 2階講堂、企画展示室(集合場所は2階講堂)

定員: 20組(参加申込多数の場合は抽選)

対象: 小学生以下(必ず保護者同伴)

| 同時開催 |

〈コレクションギャラリー〉

「鉄の技と美Ⅲ 姫路藩主酒井家の刀剣」

11月12日(土)–2023年1月15日(日)

〈常設展示室〉

國富奎三コレクション

「フランス近代絵画 モネからマティスまで」

〈美術館前庭〉

「中谷芙二子《霧の彫刻#47769 白鷺が飛ぶ》」

7月16日(土)–2023年3月12日(日)

〈書寫山園教寺常行堂〉

「圓教寺×杉本博司 能クライマックス—翁 神男 女 狂鬼」

9月17日(土)–12月4日(日)

| その他のご案内 |

特別展

「没後10年 西山松之助展 ある文人歴史家と江戸学の軌跡」

9月23日(金・祝)–12月4日(日)

姫路文学館 Tel 079-293-8228

秋季特別展「はしもとお木彫展〜カタチの生まれるところ」

10月28日(金)–12月24日(土)

姫路市書写の里・美術工芸館 Tel 079-267-0301

※最新の情報は美術館HPにてご確認ください。



| 交通のご案内 |

JR・山陽電車姫路駅より神姫バス⑦⑧乗り場から[3][4][5][61][62][64][81][82][84][86]乗車約8分、「姫山公園南・医療センター・美術館前」下車すぐ。姫路駅より徒歩約20分(姫路城東となり)
※上記路線バスのほか、姫路城ループバスも停車します(停留所は「美術館前」)。※美術館には駐車場がありませんので近隣の駐車場(有料)をご利用ください。

姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-25 TEL 079-222-2288
<https://www.city.himeji.lg.jp/art/>

※参加申し込みはいずれも当館HPのイベントページから、イベント開催日の7日前までにお申込みください。

※1~4の参加者定員はいずれも50名となります。(参加申込多数の場合は抽選)